



あらゆる福島の内側へ—

福島映像祭 2013

2013年9月14日(土)～20日(金) 一週間限定開催

会場：ポレポレ東中野(地下) / Space&Cafe ポレポレ坐(1F)

主催：Our Planet TV 共催：ポレポレ東中野 / 早稲田大学ジャーナリズムコース

「上映作品」

報道ドキュメント
「東電テレビ会議」

飯館村わたしの記録

Fukushima Reporters

原発水素爆発
わたしたちは
どう伝えたのかII

それでも
希望のタネをまく
農業をあきらめない

闘う先生

母とともに
避難区域に灯る
一つの明かり

BETWEEN
YESTERDAY
& TOMORROW

福島生きものの記録

福島へようこそ

霧の向こう
*Yonashi 3.11

天に栄える村



「東電テレビ会議」ついに上映!

本店非常災害対策室

福島オフサイトセンター

本店取子カ本部 TV会議室

開催意図

福島第一原発事故から時間が経過する中で、事故に関する報道が減り「風化」が始まっています。今、福島で何が起きているのか、原発をめぐる何が起きているか—。知ることが難しくなってきました。

「福島映像祭」は、福島原発事故にまつわる、あらゆる映像を集めて上映する映像祭です。映画、テレビ番組、そして一般市民による日々の記録まで、多様な映像を通して事故以降の福島の姿、そして「福島の今」を映し出すことが狙いです。

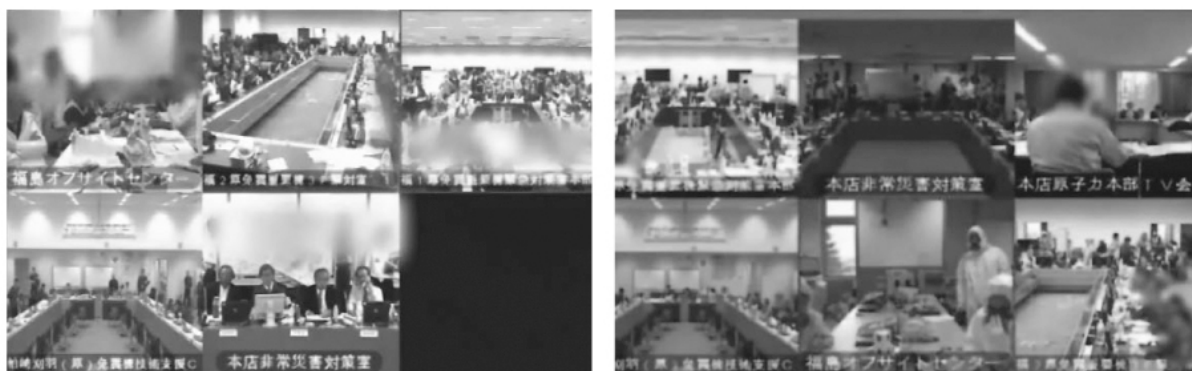
映像祭としては画期的な取組みとして、国内外のテレビ番組も劇場で上映。事故直後から現在まで、あの日、あのとき、何が起こっていたのかを多角的な視点から浮き彫りにすることを目指します。

また、市民から公募するビデオを上映し、制作者を交えた対話の場を設けることで、今なお、続いている「福島原発事故」への思いを多くの人とともに共有し、私たちに何ができるのか、糸口を探りたいと考えています。

主催：OurPlanetTV

共催：ポレポレ東中野／早稲田大学ジャーナリズムコース

報道ドキュメント「東電テレビ会議」を上映するにあたって



「本店！本店！大変です！3号機が爆発しました」

故吉田昌郎元所長の緊迫した声を覚えている人は多いだろう。福島第一原発事故の対応をつぶさに記録した第一級の映像資料「東電テレビ会議映像」が遂に劇場公開される。

監修は、朝日新聞連載「プロメテウスの罠」の「官邸の5日間」や「検証 福島原発事故 官邸の100時間」を執筆した朝日新聞経済部の木村英昭記者。東京電力が一般向けにインターネット公開した映像をもとに OurPlanet-TV がまとめた報道ドキュメントである。

映像は、福島オフサイトセンター、東電本店、福島第1原発、福島第2原発、柏崎刈羽原発を結ぶテレビ会議の分割画面のみ。しかし、緊迫した現場の声には、どんな映像よりも臨場感と迫力がある。

1号機が爆発。次第に3号機の原子炉水位も低くなり、刻々とメルトダウンが近づいてくる様子。本店の調達が後手後手に周り、バッテリー、ガソリン、水、食糧が不足する現場。打つ手打つ手が、ことごとく失敗する中、2号機、4号機にも危機が迫る様子。そして、ついに、作業員退避の検討がはじまる。

この作品は福島映像祭のために制作した。使用した映像は、既にインターネット上には公開されているものの、細切れなうえ、誰が発言しているかが分からないという問題があった。今回は、なるべく状況がわかるように、基本的な情報を挿入。2011年3月12日から15日までの3日間、福島第一原発で何が起きていたのか。時の中央制御室と同じ真っ暗な環境で、あの時間、あの原点に立ち戻る体験を共有したい。（OurPlanet-TV 白石草）

公募映像展示

ふくしまのこえ

voices
of Fukushima

会場：Space&Cafe ポレポレ坐

事故直後、携帯電話やスマートフォンを片手に、まわりの出来事を咄嗟にカメラにおさめたもの。変わってしまった些細な日常を切り取ったもの。福島からは遠い地で、福島への思いを表現したもの。各地で沸き起こる再稼働に対する人々の怒りを捉えたもの。福島の子どものたちの運動会や暮らしの風景。あらゆる映像を対象に広く一般に募集し、上映いたします。

応募申込はこちらまで→ <http://fukushimavoice.net/fes>

イベント 会場：Space&Cafe ポレポレ坐

■ オープニングレセプション(公募映像上映&出品者のトークあり)

市民のカメラがとらえた福島の記録をアーカイブするプロジェクト「ふくしまのこえ」の映像上映と、撮影したご本人のお話を聞きながらのオープニングレセプション。

その他「福島映像祭」出品者も多数参加予定。福島の農産物を使った軽食もご用意します。

9月14日(土) 18:30 開場 / 19:00 開演 料金：予約 1,500 円 / 当日 2,000 円(上映三回券使用不可)

■ トークセッション「地元テレビ局は福島をどう伝えていくのか」

震災から2年半が経った今、福島の地元テレビ局は福島をどう見つめ、どう伝えようとしているのか。映像に残せなかったもの、地元テレビ局としての苦悩と葛藤とは一。福島の民放局全4社、テレビユー福島、福島中央テレビ、福島テレビ、福島放送から関係者をお招きし、ジャーナリストの小田桐誠氏を迎え、原発事故後のメディアの役割を地元・福島からの視点で考えるトークセッション。

9月15日(日) 12:30 開場 / 13:00 開演

ゲスト：佐藤崇(福島中央テレビ報道制作局長)、鈴木延弘(福島テレビ報道局報道部長)

高橋良明(福島放送報道制作部主任)、深谷茂美(テレビユー福島制作部副部长)

ファシリテーター：小田桐誠(ジャーナリスト)、白石草(OurPlanet-TV)

料金：予約 1,500 円 / 当日 2,000 円(上映三回券使用不可)

■ 『飯館村 わたしの記録』完成記念上映+トークイベント

福島県飯館村で酪農家として、家族とともに暮らしてきた長谷川健一さん。原発事故後、ビデオカメラを購入し、独学で撮影をはじめました。飼っていた牛が売られていく様子、荒れ果てていく田畑、全村避難までの粛々とした時間、そして、村の自宅で家族が集まった最後の晩餐。「当事者の目線の後世に残したい」という思いが成した、長谷川さんだけが伝えられる物語が『飯館村 わたしの記録』として映画になりました。この作品の完成を記念し、長谷川さんに撮影時の思いや、現在の心境についてお話していただきます。

9月16日(月・祝) 16:30 開場 / 17:00 開演 ゲスト：長谷川健一(酪農家 / 『飯館村 わたしの記録』撮影者)

料金：予約 1,500 円 / 当日 2,000 円(上映三回券使用不可)

■ 報道ドキュメント『東電テレビ会議』上映+トーク

1号機が爆発、3号機の原子炉水位も低くなり、刻々と近づくメルトダウン。本店の調達が後手に回り、バッテリー、ガソリン、水、食糧が不足する現場。打つ手打つ手が、ことごとく失敗する中、2号機、4号機にも危機が迫る様子。そして、ついに、作業員退避の検討がはじまる。2011年3月12日から15日までの3日間、福島第一原発で何が起きていたのか。東京電力が一般向けにインターネット公開した映像をもとにまとめた報道ドキュメントを、朝日新聞記者・木村英昭さんの解説トーク付で上映。

9月19日(木) 17:30 開場 / 18:00 開演 ゲスト：木村英昭(朝日新聞経済部) 進行：白石草(OurPlanet-TV)

料金：1,200 円(ゲストトーク料として)(上映三回券使用可)

■ トークイベント「福島の農業のいま」

原発事故前から人々の食卓を支えてきた福島の農産物。最終日イベントでは、「食」にスポットをあて、事故後も現実から目をそらさず、放射能汚染の実態調査と農産物の測定を行い、正しい情報を消費者に届ける取り組みを続けている福島の農家の現在を、農家と映画監督、それぞれの視点から語っていただきます。

9月20日(金) 18:30 開場 / 19:00 開演

ゲスト：原村政樹(『天に架える村』監督)、菅野正寿(NPO法人福島県有機農業ネットワーク理事長)

進行：大江正章(コモンズ出版)

料金：予約 1,500 円 / 当日 2,000 円(上映三回券使用不可)

すべての予約：03-3227-1405(ポレポレタイムス社) event@polepoletimes.jp

【ポレポレ東中野】上映タイムスケジュール

	9月14日(土)	9月15日(日)	9月16日(月・祝)	9月17日(火)	9月18日(水)	9月19日(木)	9月20日(金)
15:00		テレビ プログラム② "農業・食" ★関係者来場予定	映画 「福島 生きものの記録」 ★監督来場予定	特別上映 「飯館村 わたしの記録」	映画 「霧の向こう *YONAOSHI 3.11」	映画 「福島 生きものの記録」	テレビ プログラム② "農業・食" ★関係者来場予定
17:00	特別上映 報道ドキュメント 「東電テレビ会議」 ※ ★ゲストによる 生解説付き上映	テレビ プログラム③ "ひと・生きる" ★関係者来場予定	映画 「霧の向こう *YONAOSHI 3.11」	映画 「福島へようこそ」	テレビ プログラム① "メディア・ ジャーナリズム" (参考上映) ※	映画 「BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW」	映画 「天に栄える村」 ★監督来場予定
19:00		テレビ プログラム① "メディア・ ジャーナリズム" (参考上映) ※	映画 「BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW」	映画 「霧の向こう *YONAOSHI 3.11」	映画 「天に栄える村」	映画 「福島へようこそ」	テレビ プログラム③ "ひと・生きる"

★関係者が来場されたら、劇場内やロビーなどで質疑応答を行う予定です。
※上映無料(但しトーク料・資料代などが必要となります)

【Space&Cafe ポレポレ坐】タイムスケジュール

	9月14日(土)	9月15日(日)	9月16日(月・祝)	9月17日(火)	9月18日(水)	9月19日(木)	9月20日(金)
展示	11:30 ~ 17:30	15:30 ~ 18:00	11:30 ~ 15:30	11:30 ~ 23:00	11:30 ~ 23:00	11:30 ~ 16:30	11:30 ~ 18:00
※各30分前開場 イベント	19:00~ オープニング レセプション (公募映像上映& 出品者のトークあり)	13:00~ トークセッション 「地元テレビ局は 福島をどう 伝えていくのか」	17:00~ 「飯館村 わたしの記録」 完成記念 トークイベント			18:00~ 報道ドキュメント 「東電テレビ会議」 上映+トーク	19:00~ トークセッション 「福島の 農業のいま」

料金

★ 特別フリーパス 10,000 円 (数量限定) ★

両会場の全ての上映、イベントでご使用頂けるフリーパスです。

※ご記名ご本人様のみ有効 ※ご使用時に身分証明書を提示頂く場合がございます

※当日整理番号の受付が必要となります ※満員の際はお入り頂けない場合もございます

○ Space&Cafe ポレポレ坐 展示 = 無料

○ Space&Cafe ポレポレ坐 イベント = 日によって違いますので、各イベント詳細をご参照ください。

○ ポレポレ東中野 上映

三回券：3,600 円 一般：1,500 円 シニア：1,300 円 大專：1,000 円 高中：700 円

※特別上映「東電テレビ会議」は 1,200 円均一(ゲストトーク料として)

※参考上映「テレビプログラム 1【メディア・ジャーナリズム】」は上映無料(資料代 500 円)

会場

ポレポレ東中野 TEL：03-3371-0088 <http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

Space&Cafeポレポレ坐 TEL：03-3227-1445 <http://za.polepoletimes.jp/>

東京都中野区東中野 4-4-1 1F(カフェ)・地下(映画館)



特別上映

会場：ポレポレ東中野 / Space&Cafe ポレポレ坐

報道ドキュメント「東電テレビ会議」

(約240分)



写真提供：東京電力株式会社



1号機が爆発、3号機の原子炉水位も低くなり、刻々と近づくメルトダウン。本店の調達が後手に周り、バッテリー、ガソリン、水、食糧が不足する現場。打つ手打つ手が、ことごとく失敗する中、2号機、4号機にも危機が迫る様子。そして、ついに、作業員退避の検討がはじまる。2011年3月12日から15日までの3日間、福島第一原発で何が起きていたのか。東京電力が一般向けにインターネット公開した映像をもとにまとめた報道ドキュメント。

製作：OurPlanet-TV 映像提供：東京電力株式会社

編集協力：木村英昭（朝日新聞経済部 / 「プロメテウスの罠」）



飯館村 わたしの記録 (約70分)

原発事故後、飯館村は全村避難となり6,200人もの住人が村を追われ避難生活を強いられている。「当事者の目線で、自分が実際に味わっていることを伝え、後世に残さないとだめだ」。福島県飯館村で酪農家として、家族とともに暮らしてきた長谷川健一さんはビデオカメラを購入し、独学で撮影をはじめた。長谷川さんが伝える、「あの日」からの日々の記録。

製作：OurPlanet-TV 監督・撮影：長谷川健一 構成・編集：細谷修平

テレビ作品上映 ①

会場：ポレポレ東中野

■□□ プログラム1【メディア・ジャーナリズム】

(参考上映)本プログラムのご鑑賞料金は無料となります。(資料代 500円)

Fukushima Reporters ～Keep the Cameras Rolling～

〔邦題：福島を伝える者たち～カメラを回し続けろ～〕(福島中央テレビ/50分)



2011年3月、東京電力福島第一原発1号機の水素爆発をメディアとして唯一撮影し世界に報じた福島中央テレビのスタッフたちが事故を当時どう伝え、その後、どんな思いで福島を伝え続けているのかを描く国際共同制作ドキュメンタリー。カメラマン、アナウンサー、記者がそれぞれの思いを語る。

製作：Autentic (ドイツ)、(株)きさくや、福島中央テレビ
ディレクター：Patrick Horl (Autentic) / 松本圭 (きさくや)
プロデューサー：Patrick Horl (Autentic) / 田中利彦 (きさくや)
初回放送日：国内未放送 / ドイツ80分版2013年3月11日

原発水素爆発 わたしたちはどう伝えたのかⅡ (福島中央テレビ/47分)



©FCT・NNN

2011年3月、福島中央テレビは東京電力福島第一原発1号機、3号機の水素爆発をメディアとして唯一撮影し世界に報じた。映像以外に全く情報がない中で事態をどう伝えたのか。その一方、国の発表そのままの「ただちに影響はない」報道には福島でもマスコミ不信が高まった。地元メディアとして、何ができ何ができなかったのか、震災9か月後に自己検証したローカル番組。

放映局：福島中央テレビ ディレクター：小林典子 プロデューサー：佐藤崇
初回放送日：2011年12月31日

□■□ プログラム2【農業・食】

それでも希望のタネをまく～福島農家 2年めの試練～ (テレビユー福島/50分)



©TUF

福島県では昨年
からコメの全袋検査を行っている

福島第一原発から約50kmに位置する二本松市東和地区で、有機農業に取り組んできた専業農家・菅野正寿さん。有機農業の命とも言える土が放射性物質で汚染されたという現実に向き合いながら、農業の再生を目指している。原発事故から2年目、さまざまな困難にさらされながらも、安全なコメを作る努力を続ける菅野さんを通して、福島の農業が直面するひとつの現実を伝える。第28回農業ジャーナリスト賞受賞。

放映局：テレビユー福島 ディレクター：深谷茂美 プロデューサー：吉田和樹
初回放送日：2012年12月3日

農業をあきらめない～旧警戒区域の農家たち～ (福島放送/26分)



©KFB

2012年4月に避難指示区域が再編された南相馬市。全域が警戒区域だった小高区は、ほとんどが避難指示解除準備区域と居住制限区域になり、日中は住民が立ち入れるようになった。再編とほぼ同時に小高区の農家の一部は米の試験作付のため、田植えを行うなど営農再開に向けた準備を始めた。がれきの処理や農業用水の確保、農地除染など課題が山積する中でのスタート。ふるさとの農業をあきらめない農家たちの9ヶ月間を追った。

放映局：福島放送 ディレクター：鎌田侑樹 プロデューサー：吉田光利
初回放送日：2013年1月26日

※一部先行チラシで上映予定としていた「海は死んだのか 福島の漁師 親と子の選択」は諸事情により上映中止となりました

テレビ作品上映 ②

会場：ポレポレ東中野

□□■ プログラム3【ひと・生きる】

闘う先生 (福島放送/46分)



©KFB

原発事故後も南相馬に残り診察を続けた産婦人科医・高橋享平(73)。事故後、月20件以上あったお産は月1件となった。「子供の生まれない町に未来はない」と自費を投じて除染を続けた。そんな矢先、がんを宣告され自身が患者となった。抗がん剤治療を続けながら、闘い続けた先生に密着した。日本民間放送連盟賞優秀賞受賞作品。

放映局：福島放送 ディレクター：高橋良明 プロデューサー：宇野英人
初回放送日：2012年3月2日

母とともに 避難区域に灯る一つの明かり (福島テレビ/54分)



©FTV

物々しいバリケードが取り除かれたその日、普段と変わらず母の介護を続ける女性がいた。伊藤巨子さん。認知症を患う母親の介護を続けて12年になる。あの日、伊藤さんは自衛隊や警察からの再三にわたる避難の呼びかけにも応じず、自宅にとどまり続けた。寝たきりの母を、守るために。60年前、母は町議会議員を務めていた。原発の建設を進める町の唯一の女性議員。原発が地域にもたらしたものはなんだったのだろうか。

放映局：福島テレビ ディレクター：石山美奈子 プロデューサー：千田淳一
初回放送日：2013年5月27日

映画作品上映 ①

会場：ポレポレ東中野



["BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW" Omnibus 2011-2012 for FUKUSHIMA]

(2011-2012年/日本/63分) ※英語字幕付

監督：前田真二郎、鈴木光、中沢あき、池田泰教、齋藤正和、大木裕之、上峯敬、高尾俊介、西村知巳、高嶺格、五十嵐友子
作品提供：ソルコード

「ある一日を撮影、前日に声を録音、あくる日に声を録音」という指示書をもとに制作された5分間の作品群の中から、福島を舞台にしたものを中心に12作品をオムニバス形式で上映。相馬市でボランティア活動をした日、郡山に住む兄を訪ねた日、高速増殖炉もんじゅを訪れた日…。2011年から2012年にかけての「ある日」の記録が集積することで、あの時期の世の中が持っていた気分が見えてくる—

- 1 前田真二郎 "ITO-kun" / 2011年3月27日
- 2 鈴木光 "IN THE CAR" / 2011年4月3日
- 3 中沢あき "neon no kuni / land of neon" / 2011年4月10日
- 4 池田泰教 "A Quiet Day" / 2011年5月15日
- 5 齋藤正和 "The Horse" / 2011年5月21日
- 6 大木裕之 "May_be" / 2011年5月26日
- 7 上峯敬 "Monju" / 2011年5月31日
- 8 高尾俊介 "Hazuden/Electricity" / 2011年6月19日
- 9 西村知巳 "SEAGULL" / 2011年8月31日
- 10 池田泰教 "Hanging in midair" / 2012年1月8日
- 11 高嶺格 "VOICE OVER FUKUSHIMA" / 2012年1月21日
- 12 五十嵐友子 "AGATHA" / 2012年3月11日

映画作品上映 ②

会場：ポレポレ東中野

『福島 生きものの記録』 (2013年/日本/76分)



監督・製作：岩崎雅典／撮影：明石太郎、田中希／録音：吉田茂一
編集協力：五十嵐拓／作品提供：群像舎

原発事故後、放射線による人体への健康被害の問題はさまざまなメディアで報道・検証されているが、本作は福島の生きものたちを見つめることで、放射線の健康や遺伝への影響をあぶり出していく。“被曝牛”を育てる牧場の苦悩、アカネズミやモグラの捕獲調査結果、ツバメの子育ての経過観察…。他の生物に目を向けることで他では語られない発見を見出した科学ドキュメンタリー。

『福島へようこそ』 [原題：Welcome to Fukushima] (2013年/ベルギー/60分)



監督・撮影：アラン・ド・アルー／音楽：ミシェル・ベルクマンズ／作品提供：シンプル・プロダクション、CBA/WIPセールス／製作プロダクション：シンプル・プロダクション、クレッシュェンド・フィルムズ、リンディエン・プロダクションズ／テレビ放映：RTBF局 (2013年3月11日、12日)

福島第一原発から約25km離れた福島南相馬市。事故後、南相馬を離れた人もいれば、戻ってきた人もいる。国がしてくれない線量測定を始めた男性、避難によってパニック障害を発症してしまった少女…。多様にある南相馬の人々の声を紡ぎながら、事故から半年後、一年後、一年半後を描く。美しい旋律の弦楽とともに描かれる南相馬の断片。事故から一年半後、南相馬の誇りである”相馬野馬追”でスケッチは結ばれる。

『霧の向こう*Yonaoshi 3.11』 [原題：AU-DELA DU NUAGE] (2013年/日仏合作/94分)



監督：ケイコ・クルディ／撮影：落合智成／編集：村本勝／音楽：前林明次
整音：滝澤修／ポストプロダクション協力：(株)モンタージュ
協賛：東京フランス大使館、斎藤惇子、Kiss Kiss Bank Bank、APSARA、JTB、Mr Totoro

2011年3月11日の東日本大震災にショックを受けたフランス人映画監督のケイコ・クルディはそのあとすぐに現地に向かい、一年以上をかけて現地の住人、家庭の母親、子供達、農家などに取材をした。高濃度の放射能汚染が確認される地域にもまだたくさんの人が住んでいる。この状況を理解するために、彼女は次に今の日本を代表する著名人や活動家にインタビューを行った。貴重なインタビューから見えてくるのはこの災害の危機にあって、起こる矛盾とトラウマから立ち上がる国民の躍動である。

『天に栄える村』 (2013年/日本/106分)



監督・編集：原村政樹／語り：余貴美子／編集協力：四宮鉄男／撮影：中井正義、今野聖輝、藤江潔、木村光男／音声：山谷明彦、西島房宏／音楽・効果：徳永由紀子／作品提供：桜映画社

福島第一原発から70km離れた福島県天栄村は、豊かな里山に囲まれ村人たちが農業を営んできた。なかでも日本一の米づくりを目指す農家のグループ「天栄米 栽培研究会」は、耕作放棄田の再生などを試みながら、コンクールで4年連続金賞を受賞。しかし、2011年の原発事故によって田畑は汚染されてしまう。それでも彼らは、様々な方法で放射性物質の除去に挑みつつ日本一の味を保つ道を模索する。未曾有の環境破壊を乗り越えようとする農家の人々の苦闘を追った。